**令和元年度　大阪府立障がい者自立センターにおける支援状況報告**

資料２

1. **利用者の状況**

**◆利用男女比**

**男性：女性＝４：１**

**◆利用開始時年齢**

**平均　49.5歳（20～64歳）**

**◆高次脳機能障がい者の割合**

**全体：93.7％（機能訓練：90.6％）**

**※生活訓練は100％**

**◆平均利用期間**

**・機能訓練　13.8ヶ月**

**・生活訓練　12.2ヶ月**

**◆障がい者手帳所持の割合**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **身障手帳** | **精神手帳** |
| **機能訓練** | **90.6％** | **10.6％** |
| **生活訓練** | **26.8%** | **46.3%** |
| **全体** | **69.8％** | **22.2％** |

 **【入所経路】**

**【退所後の状況】　(平成31年度退所者：機能訓練44名、生活訓練23名)**

**◆退所後の日中活動**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 復職新規就労 | 就労移行 | 就労A・B |  | 家事趣味活動 | 介護保険サービス | その他 | 入院 |
| 機能訓練 | **20.5％** | **9.0％** | **22.7％** |  | **22.7％** | **9.0％** | **13.6％** | **2.3％** |
| 生活訓練 | **21.7％** | **17.4％** | **21.7％** |  | **26.0％** | **0％** | **8.7％** | **4.3％** |

**◆退所後の生活場所**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **家庭** | **単身 \*a** | **GH** | **施設 \*b** | **入院** |
| **機能訓練** | **52.3％** | **22.7％** | **6.8％** | **15.9％** | **2.3％** |
| **生活訓練** | **65.2％** | **17.4％** | **4.3％** | **8.7％** | **4.3％** |

**＊a　サービス付き高齢者住宅を含む**

**＊b　有料老人ホーム等**

1. **支援の状況**

**【支援プログラム・生活支援】**

・平成30年度より、個人の特性やニーズにできるだけ添うために、通常の4グループに加えて、Ｓトレ、Ｊトレ、言葉・交流、注意力と運動、グループトレーニング等、細分化したプログラムを平成30年度より開始した。

・施設生活場面では、例えば、薬を飲み忘れないよう、職員の手渡しから始め、服薬カレンダーやチェックリスト等を用いて自己管理できるようにしたり、発動性が低い人に対して、移動に声かけが必要なところから、アラーム等を用いて移動できるようにしたりと、徐々に介助量を減らし生活の中で自分のできることを増やしていっている。

・感情コントロールに課題があり、対人トラブルが起こりやすい利用者には、居室変更、個室対応、居室配膳、個別面接、自己学習等の工夫により対応してきたが、事後対応、都度対応にならざるを得ないことも多く、支援の限界を感じていた。施設としてのアプローチを考える必要性を強く感じ、令和元年度より、集団の中で感情コントロールやストレスマネジメントを取り扱うためのグループワークを開始した。また、心理職による個別の心理面接の数を増やすことで利用者一人ひとりに対する精神面のフォローを重点的に行った。因果関係は不明であるが、平成30年度に比べ、暴力・暴言事案は激減している。

**◆グループワーク**

　障がい理解を促進し、退所後の生活・就労をイメージしてもらうために、チェックリストやDVD視聴等を通して意見交換をしたり、社会資源の情報提供等を行った。対象者別に、4種類（①高次脳機能障がいの方（計8回/2か月）②失語症の方（計8回/2か月）③就労を目指す高次脳機能障がいの方（計16回/4か月）のグループワークを1年、3クール実施した。

　令和元年度より、感情への気づきを高めたり、感情コントロールやストレスマネジメントについて体験を通して学ぶことを目的としたグループワークを開始し、2か月間で合計7回を1クールとし、4回実施した。

**◆利用者向け講座**

2か月に1回程度、当センター職員や外部講師による講座を開催した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 講座名 | 講師 |
| 令和元年5月23日 | あなたの体幹 大丈夫？—体幹筋の筋力低下を防げ— | 理学療法士 |
| 令和元年6月20日 | 食中毒と生活習慣病/皮膚トラブルとスキンケア | 医師・看護師 |
| 令和元年8月21日 | 学習について―訓練で脳はどうなる？― | 医師 |
| 令和元年9月26日 | 第三者委員の役割とは？ | 第三者委員 |
| 令和元年11月7日 | 大阪障害者職業能力開発校とは？ | 障害者職業能力開発校職員 |
| 令和元年12月5日 | 健康と食事 | 栄養士 |
| 令和2年2月20日 | 就労移行支援事業所とは？ | 就労移行支援施設事業所 |

**【地域移行支援】**

・調理評価、外出評価・訓練、職能評価、家屋調査、生活実習などを行い、生活環境や条件の整備を行っている。

・退所後の日中活動先やグループホーム等の見学・体験を適宜行ったり、関係機関への情報提供・共有を行ったりしながら、スムーズな地域移行を目指している。

**◆家族交流会**

　生活訓練利用者及びその家族を対象に、高次脳機能障がいの症状・対応や社会資源等についての講座、家族同士の意見交換等を行った。家族交流会については、令和元年7月19日、9月20日、令和2年1月30日の3回実施し、計23名が参加した。

**◆「使たらええで帳―高次脳機能障がいファイルー」の作成**

　退所後でもスムーズに支援が受けられるよう、発症・受傷からの経過や現在の障がい状況、対応方法等の情報をまとめ、本人・家族に渡している。自立センターでのアセスメント結果を各職種が継続的に記録する様式を作成し、自立センター版「使たらええで帳」に盛り込んだ。令和元年度は、計119人に配布した。また、本人・家族を通して、地域移行先の事業所や相談機関等にも情報提供を行った。

**◆アフターフォロー**

　退所後１ケ月後を目途に本人、家族、相談支援事業所などに連絡し、状況を確認した。必要なサービスが利用できるよう、適宜情報提供等を行った。令和元年度は59名に実施した。復職者8名は退所後6ヶ月時点（平成31年度　就労定着実績）でも全員就労継続している。

**３．普及啓発・人材育成**

**◆医療機関向け施設見学・説明会**

回復期病院のMSWやセラピストを中心に、施設見学及び支援内容や利用手続きについて説明を行い、支援を必要とする人につながるよう周知を図った。令和元年7月2日、9月19日、令和2年1月23日に実施し、計119名が参加した。

**◆介護支援専門員法定外研修**

　令和元年5月30日、8月1日、令和2年2月13日に主任ケアマネジャーを対象に実施し、175名が参加した。

**◆研修・実習受け入れ**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研修・実習名 | 日数 | 参加者数 |
| 大阪府主事・技師級研修Ⅲ（福祉体験） | 1日間×３５回 | 計141名 |
| 大学生 福祉専門職体験学習 | 1日間×２回 | 計12名 |
| 障がい者ホームヘルパー研修  | 1日間×5回 | 計14名 |
| 立命館大学大学院（公認心理師） | 3日間 | 4名 |
| 急総心理師 | 半日 | ６名 |
| 大阪大学歯学部学生 | 1日  | 4名 |
| 大阪市長居障がい者スポーツセンター | 1日 | 22名 |
| 北河内障がい者就業・生活支援センター | 半日 | 1名 |

**◆講師派遣等**

　「居宅介護職員初任者（障がい者ホームヘルパー）研修」や「市町村障がい福祉担当新任職員研修全体研修」等9件の研修会で講師を担当した。

**４．その他**

施設の支援力向上を目的に、退所者にアンケート調査を実施し、結果をホームページに掲載した。利用中の方からの苦情報告集計や、平成30年度の福祉サービス第三者評価受審結果についてもホームページに掲載している。